

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201255		
法人名	医療法人社団 三草会		
事業所名	グループホーム もえれのお家アカシア館・ポプラ館		
所在地	〒007-0873 札幌市東区伏古13条3丁目11-7 (電話) 011-787-1851		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成22年2月17日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	14.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~40,000 円	その他の経費(月額)	20,000~23,000 円	
敷金	有() 円 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳		71歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クランク病院・ファミリー内科・勤医協10条クリニック・さくら歯科クリニック・札幌皮膚科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、1階が併設のデイサービスで2~3階がグループホームとなっている。デイサービスからの利用者も多く職員とも顔馴染みの関係となっており、デイサービスと交流もある。経験豊富な管理者のもと職員は、利用者一人ひとりの思いやペースを尊重しながら利用者本位のケアサービスに取り組んでいる。訪問看護師の適切なアドバイスや緊急時連絡マニュアルを整備しており、看護師や医師との連携を24時間体制で整えており、利用者が安心して過ごすことができるよう配慮している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である日常的な外出支援については、利用者一人ひとりの状態に合わせて外出支援を行っている。また、災害対策については、地域住民の協力が得られるよう取り組みを検討しているところである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員は評価の意義と活用について理解しており、今回の自己評価についても全職員で話し合い管理者がまとめ、日々実践しているケアサービスを振り返りながら職員間での共有を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催している。会議では、利用者の状態や事業所の行事報告、災害時の協力、地域との関わり、介護保険制度について等、様々なテーマについて活発な意見交換を行い、事業所の運営に活かしている。また、会議記録も整備している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明記している。家族へは運営推進会議の参加を依頼しており、外部に意見を表せることができる機会を設けている。事業所は家族が意見や要望、苦情など、何でも話しやすい雰囲気づくりに配慮し、出された課題については職員全員で話し合いケアサービスや運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所開設後6年経過しており、事業所周辺に住宅も増えてきているが、若い世代の住民が多くグループホームを理解するまでには至っていない状況である。町内会に加入し行事には利用者と一緒に参加をしているが、今後、介護保険制度のことや事業所について理解してもらえるよう新聞委員が中心となり地域向けの新聞を発行する予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしい生活を支えていくサービスとして、運営法人グループ内に共通した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は事業所内の要所に掲示している。管理者と職員は理念の重要性について認識し、意見統一や話し合いを行い、実践に向けて日々取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事には利用者と参加をしている。運営推進会議には町内会長や地域推進委員も出席しているが、若い世代の住民が多くグループホームを理解するまでには至っていない状況である。	○	今後、新聞委員が中心となり地域向けの新聞発行の計画や介護相談など、地域に向けて発信していく体制作りを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、評価結果についても全員で話し合い問題点を検討し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。会議は、利用者家族や地域住民、消防団や地域包括支援センター職員、法人本部副部長をメンバーとし、様々なテーマについて意見交換を行い、事業所の運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者とは必要に応じて情報交換を行っている。また、定期的に区が開催している管理者会議に事業所の管理者が出席したり、札幌市実践者研修実習の受け入れを行っており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所は、利用者や家族との会話を大切にしており、家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりや体調について詳しく報告をしている。ほとんどの家族は来訪しているが、来られない家族には電話や手紙で状況を報告をしている。金銭出納については領収書を郵送したり、明細を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置してあるが、家族が来訪した際に直接意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議にも家族が出席し、意見を表せる機会を設けている。また、重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明記している		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、異動や離職を最小限に抑えるために働きやすい環境改善に努めている。一階に併設しているデイサービスやユニット間の交流も盛んで、職員と利用者は顔馴染みの関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者と管理者は、ケアの質を高めるには職員研修が不可欠と認識しており、職員は経験や希望、実務に応じた年間研修計画に沿って法人内研修や外部研修に積極的に参加をしている。研修内容は報告、記録し職員全員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は管理者会議に参加し、同業者と交流する機会を持っている。また、職員は区内の事業所職員と勉強会で交流する機会があり、事業所が持ち回りで事例検討会を行い、グループ討議で意見交換をし、交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者と管理者が自宅を訪問し、利用者ができるだけ在宅に近い形で安心して生活ができるよう家族の協力も得ながら、個別の利用調整を行っている。また、併設しているデイサービスから利用を開始する利用者は職員と顔馴染みの関係ができており、事業所の生活に馴染むまでデイサービスを利用するなど、利用者の視点に立ち柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一方的な関り方にならないよう、利用者ができること、できないことを把握して、職員と利用者が互いに協働しながら生活をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の生活の中で、利用者一人ひとりの思いを大切にし、利用者や家族からの生活歴の情報などを把握し、その人らしい生活ができるよう希望や意向になるべく沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に行っている意見交換やカンファレンスのほか、職員の気づきを記録に追記し集約して介護計画に反映させている。また、利用者や家族の希望を聞き、利用者のための計画を作成し実践している。作成後は家族に同意のサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月見直しを行っている。また、利用者の身体状態に変化が生じた場合には、家族や関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ通院の送迎や買い物に付き添うなど、その時々で柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護センターの看護師やかかりつけ医の協力を得て、適切な医療を受けられるよう支援をしている。緊急連絡マニュアルも用意しており、看護師や医師との連携を24時間体制で整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応についての指針を作成している。取り組みについては利用者や家族、関係者と話し合っているが、方針を全職員が共有するまでには至っていない。今後、家族の気持ちに配慮をしながら、その時々で慎重な取り組みを行う方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーや誇りを損なわないよう、十分に注意をしながら対応している。また、個人情報の取り扱いについての家族の同意書があり、書類の取り扱いについても慎重に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で支援をするのではなく、利用者一人ひとりの声に耳を傾け、その日の体調や希望に合わせ、日々その人らしい暮らしができるよう希望になるべく沿うような見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、毎日職員と利用者として話し合い決めている。利用者は、食事の準備や後片付けをできる範囲で手伝っている。職員も一緒に食事をし、介助や声かけを行うなど、ゆっくりと食事の時間を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制が整っている。利用者の希望や体調に合わせ、無理強いをせず利用者の意志を確認しながら支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や身体状態に応じ、楽しみごとや張り合いになることの把握に努め、一人ひとりに応じた場面作りを支援している。また、希望や能力に応じ、家事などの役割を担ってもらい、残存能力の維持に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候、利用者一人ひとりの身体状態に応じ、買い物や散歩、町内の行事に参加するなど、利用者の希望を取り入れながら支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入り口にはブザーを付け、戸の開閉が把握できるよう工夫している。一階は併設のデイサービスとなっていて玄関の出入りが確認できるようになっており、日中は鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所では、年2回避難訓練を実施している。救急救命の講習も受けておりAEDも設置しているが、地域の協力体制が十分整備しておらず、地域住民との連携が得られていない。	○	運営推進会議には消防団や地域住民も出席しているので、地域ぐるみの災害対策についての話し合いを重ね、具体的な支援体制の整備を段階的に準備し、利用者の状況に配慮しながら、実施に向けての取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分量は、詳細に記録している。また、一人ひとりの嚥下状態に応じ、刻み食など個別の支援をしている。訪問看護師や医師とも連携し、バランスの良い食事を提供している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は採光がよく、明るい雰囲気、廊下は広く車椅子対応となっている。ユニットごとに4ヶ所トイレを設置しており、浴室はユニット名にちなんだ色を使用していて、落ち着いた雰囲気になっている。ソファを居間や廊下に置き、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼット以外、利用者の馴染みのものや生活用品を使いやすいよう収納しており、利用者が居心地よく安心して過ごせる場所となっている。		

※ は、重点項目。